

Company OS / Value Sprint 事例集

この資料は、Alphabaseが中小企業向けに提案する会社OS構築の代表パターンをまとめたものです。AIを単体で納品するのではなく、業務対象、状態、判断、ActionをつなぐOS要素として設計します。実績数値やお客様コメントは、公開許諾後に個別事例ページへ反映します。

CASE 01 / SALES SUPPORT

営業支援会社の納品物をDeliverable OSへ

戦略、トークスクリプト、管理シートなど、毎回人が作っていた納品物を、顧客情報から生成・編集・出力・品質確認までつながる業務OSへ。

Before

ベテランの判断と手作業に依存し、複数社対応時の負荷が高い。

Built

顧客情報入力、生成ルール、AI Action、編集、出力、確認までを一つの流れに。

After

新人でも叩き台から始められ、品質チェックへ時間を使える状態へ。

CASE 02 / INVENTORY

ワイン在庫・入出庫をInventory OSへ

在庫、入出庫、確認履歴が人の記憶に寄っていた状態から、商品、在庫状態、入出庫Action、履歴がつながるInventory OSへ。

Before

紙、表、担当者の記憶に情報が分散し、最新状況の確認に時間がかかる。

Built

在庫DB、入出庫履歴、スマホ確認画面、検索・登録導線を整備。

After

担当者以外でも在庫状況を確認し、入出庫履歴を追える運用へ。

CASE 03 / COMPANY OS

自社の請求・制作・開発をCompany OSで回す

Alphabase自身が、請求、制作、開発、レポート、タスク管理、AI RunをCompany OSで運用しています。

Input

問い合わせ、議事録、制作メモ、開発タスク、請求情報を集約。

AI

分類、要約、下書き、未対応抽出、次アクション作成を補助。

Human

公開、送信、請求、提案などの最終判断は人が確認。

会社OS化しやすい業務パターン

- 毎回同じ形式で作る資料、報告書、見積、提案文
- 顧客対応の返信案、FAQ、社内確認事項
- 日報、議事録、現場写真メモの要約と分類
- 案件ステータス、次アクション、未対応の抽出
- 在庫、入出庫、請求、入金などの確認作業

この資料では未確認の成果数値を掲載していません。個別事例の数字、コメント、ロゴは、公開許諾後にHPへ反映します。

似た課題がある場合は、会社OS診断から。

約3分で、御社の顧客、案件、請求、タスク、KPIのどこに分断があるかを確認できます。

<https://alpha-base.jp/diagnosis>